

第69回(平成27年度)全国茶品評会玉露の部で 八女市上陽町の井上一美さんが日本一獲得!

この品評会は、国の農林水産祭参加行事として、全国茶生産団体連合会が主催したもので、平成27年8月25日～28日まで静岡市の(株)静岡茶市場で開催されました。審査茶種は、煎茶10k、煎茶4k、深蒸し煎茶、玉露、かぶせ茶、てん茶(抹茶にする前のお茶)、蒸し製玉緑茶、釜炒り茶の8茶種部門があり、それぞれの部門の1等1席には農林水産大臣賞が授与されることとなっております。私は審査委員20名の一人として審査をさせて頂きましたので、概要のご紹介をします。

福岡県からは、煎茶2部門、玉露、かぶせ茶、てん茶の5部門に出品し、それぞれ多くのお茶が入賞したことにより、八女茶の名声を大いに高めることとなりました。中でも玉露部門では、1位から5位まで独占し、1等1席の日本一には井上一美さん(75歳)が輝かれました。外観(形状や色沢)、香気、水色(茶碗についだときの茶の色)、味の各審査項目で満点を取られ、まさに日本一にふさわしい玉露でした。

井上一美さんは、これまで約20年もの間、毎年欠かさず全国茶品評会玉露の部に挑戦されており、初の全国制覇を成し遂げられました。玉露づくりでは、特に被覆の開始時期や摘採時期に留意されたそうです。石の上にも3年という諺がありますが、20年間の長きにわたり、日本一を目指してこられた姿にただ脱帽し、尊敬申し上げる次第です。

福岡県農林総合試験場
八女分場長 仁田原 寿一



井上 一美さん



品評会審査の様子

楽しい絵手紙



八女市本町
下川 嘉子

はつらつ絵手紙教室に入会して大坪先生の御指導を受け教室の皆様と楽しく絵の勉強をしています。数年前右手首を骨折しましたが、リハビリのつもりで努力して、どこにか人並みに手を動かすことができるようになり、絵も描けるようになりました。

絵の構図や遠近の表し方、色彩等勉強してゆく楽しさは頭の体操と思っています。

私は一昨年来壽を迎えましたがもう暫らくは先生や教室の皆様の世話になりたいと思っています。よろしく願っています。

野鳥ウォッチング ⑨ ヤマガラ

スズメぐらいの大きさで、秋の実であるエゴノキの実を大好物としており「ニイー・ニイー」と鳴きながら飛んで来ます。

木の実を貯える習性があり、取った実は両足でおさえ、くちばしで割りながら中の実を器用に取り出して食べます。また、地面にかくして保存し冬にそなえるようです。

矢部村 栗原 浩暢



ありがとう ふるさと

地域のみなさんのおかげでウインドアンサンブル CHIKUGO は20周年を迎えることができました。これまで様々な演奏する機会に恵まれ、それを目標に活動を続けてきました。少しずつ名前を覚えてもらうようになり、団員が集まるきっかけにもなりました。演奏の機会を与えていただいた方々、いつも応援してくれるみなさん、活動を理解して支えてくれる家族、みんなへのありがとう、というメッセージを届けるために、ふるさとを大切に思う気持ち、これからも地域に愛される楽団でありたいという想いを込めた演奏会を開催します。当日はたくさんの方に楽しんでいただけるようなバラエティーに富んだプログラムでお待ちしています。

日時 10月18日(日)13:30開場 14:00開演
場所 サザンクス筑後 大ホール
入場料 無料
お問い合わせ

ウインドアンサンブル CHIKUGO
担当: 投野 TEL050-5583-2878 まで



岩戸山古墳で大コーフン

古代八女、激動の時代に思いを馳せながら、九州北部最大の古墳「岩戸山古墳」とその埋葬者とされる筑紫君磐井に関連する様々な体験ができるイベントです。八女青年会議所では全国に誇れる地域資源をより多くの人に知ってもらい、さらなる郷土愛醸成のきっかけにしたいと考えます。熱気球搭乗、勾玉制作、石人石馬石彫、石包丁稲刈などの体験のほか、磐井の劇やクイズラリーなど盛りだくさんの内容。参加費は無料ですので、多くのみなさんのご来場をお待ちしています。

日時 10月10日(土) 8:30～
場所 岩戸山古墳および周辺
参加費 無料

お問い合わせ 八女 JC 事務局
TEL0943-24-4022 まで



高齢者に対する新たな交通安全講習の実施について

高齢者の交通事故を抑止するため、筑後警察署では、管内の自治体(筑後市)で運行、管理している「コミュニティ・バス(福祉バス)」に女性警察官を「バスガイド」役として乗車させ、バス内における交通安全講習を開始しました。講習内容は、病院から帰宅する高齢者を対象に、車窓から見える「交通事故危険箇所」や歩行者、自転車等による「危険な行為」等をリアルタイムにガイドナビ(説明・解説・指導)するもので、運行ルート上の交通事故発生地点を地図上に落とした「交通事故チラシ」や反射材の配布を行い、交通安全へのガイドナビを実施しています。同バスは、地域バスとして高齢者に親しまれ好評を得ており、「現場を見ての説明がわかりやすい」、「ためになった」等の反響が寄せられています。ガイドの様子は、テレビ等で報道され、大きな広報効果が認められており、今後は、近隣の自治体においても実施し、男性警察官を乗車させた”筑後のバスボーイ”として交通事故抑止活動を推進することとしています。

こんにちわ。
筑後警察署です。
⑩



呟き

晩年

親しい人達を、次々と見送ることの多いこの夏だった。朝夕には涼風が微かに感じられるようになった頃、私は太宰治の「晩年」を読み返した。作家としての最初の作品集が「晩年」というタイトルだったのも、いかにも太宰らしい。亡くなったのが三十八歳だから、既にこの時が「晩年」の域だったのだろう。

通夜の席で「若い頃は苦労の連続やったけど、晩年は幸せな人生だった」と話す声があった。晩年は一生のおわりの数年をいうのだから、何も年老いた時期ばかりではない。その人の命の終わる死に近い時期を晩年と呼ぶ。だから人は誰しも自分自身の晩年を知ってはいない。その命が尽きた二十歳の青年にも、四十歳の従兄弟にも、それぞれの晩年がある。

林修氏の「いつ、やる?」「今でしょ!」が未だに流行しているが、的を射た言葉だと思う。私達はこの貴重な「今」を積み重ねて生きている。菩提寺から戴いたカレンダーに「今でしょ!」よりも強烈な言葉があった。「今を生きていくに何を生きる。ここを生きていくに何を生きる」(大神信章・おのがみんしょう)。

この夏の厳しい暑さと日々の暮しの中で、萎えそうになっていた心と身体のだ真ん中を打ち抜いて、新たな力を注ぎ込んでくれた。

台風をあれよ、あれよと遣り過ぎすうちに、秋は少しずつ色づき始めている。 蒼子